

海外短信



— タイ —

タイ正月・気候の変化

～ AGC旭硝子(株) ～



安全と無事を祈願

AGC旭硝子(株)のタイ現地事業体AGCオートモーティブタイランドからレポートします。

私がタイに駐在して1年4ヶ月が過ぎ2回目のお正月を迎えました。

タイでの今年の年号は西暦2011年・仏歴2554年です。仏歴とはお釈迦様の死後何年かというもので、西暦に543を足した数字です。12月31日大晦日と1月1日新年の日の2日間だけが賑やかで、日本人にとっての正月はあっさりと終わります。

中華系タイ人にとっては春節(2月3日)が、一般のタイ人にとっては4月のソンクランが本当のお正月だからです。このように異なる正月を3回楽しむことができます。

日本とも似ていますが、1月の良い日を選んで今年の安全と無事を幹部全員で祈ります。

タイの気候は、乾季(10月下旬～2月初旬)・暑季(2月中旬～6月)・雨季(7月～10月)の3つに別れていますが、最近は、Hot, Hotter, Hottestの3シーズンと言われるぐらいに地球温暖化の影響を受け、変化していると肌身に感じます。

特に昨年は、雨期の後半から洪水被害がタイ各地で発生し、何百人という死者が出ただけでなく、多くの人が家を失いました。この写真は弊社従業員の家族が被災した状況です。タイ全土でコメを中心とした農作物への被害だけでなく、工場・倉庫が水没するなどの被害にあった会社も数えきれないくらいでした。川の水位が最高となったタイ陰暦11月の満月の夜前後は、チャオプラヤ一川などの堤防が決壊するのでは、またバンコク市内の彼方此方が浸水するのではとの情報が駆けめぐったくらいでした。

乾季に入り、ようやく状況は一段落していますが、最近の世界各地の洪水被害の報道を見るにつけ、今年も決して安心できないと思われます。

タイの良き文化の一つである弱者救済の精神から、政府・民間企業・個人それぞれが被災者に対する支援を行っています。



気候変化による洪水被害が増大